

こみせまつり



毎年9月中旬に開催される「黒石こみせまつり」は、こみせの歴史的文化遺産としての価値や認識を深めながら、商業の活性化を図ることを目的に昭和61年から行われています。会期中は、津軽三味線の演奏や津軽太鼓の競演、よさこいソーラン、ご当地グルメ「黒石やきそば」なども楽しめます。

・問／黒石商工会議所 0172-52-4316

黒石よされ

8月14~20日に行われる日本三大流し踊り「黒石よされ」の起源は、5、6百年前で、男女の恋の掛け合い唄であったと言われています。盛んに行われるようになったのは、約2百年前の天明の頃であり、時の家老境右衛門が、城下町に人を集め商工振興対策として力を入れてから受け継がれています。

8月15~16日、連日2千人もの踊り手による「流し踊り」も壮观ですが、時折円になつて踊る「廻り踊り」も大乱舞となり、踊り子に手を引かれて輪に参加する観客も多くいます。

・問／黒石商工会議所 0172-52-4316
黒石よされ実行委員会
(黒石商工会議所内)



黒石ねぶた祭り

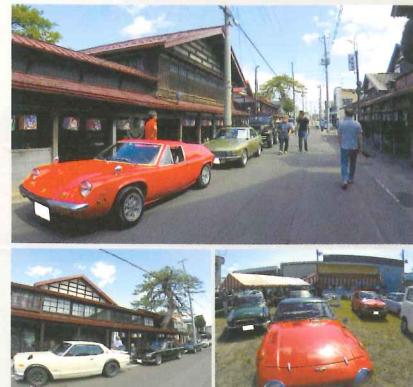
人形ねぶたと扇ねぶたがともに共存し運行されるのが「黒石ねぶた祭り」の大きな特徴です。背中に描かれる見送り絵や高欄のついた人形ねぶたの造りは、長い歴史と格調高さを感じさせ、これも特徴のひとつです。

・問／黒石青年会議所
0172-52-3369



7月30日、8月2日の合同運行では50台以上のねぶたが一斉に運行し、観客を魅了します。

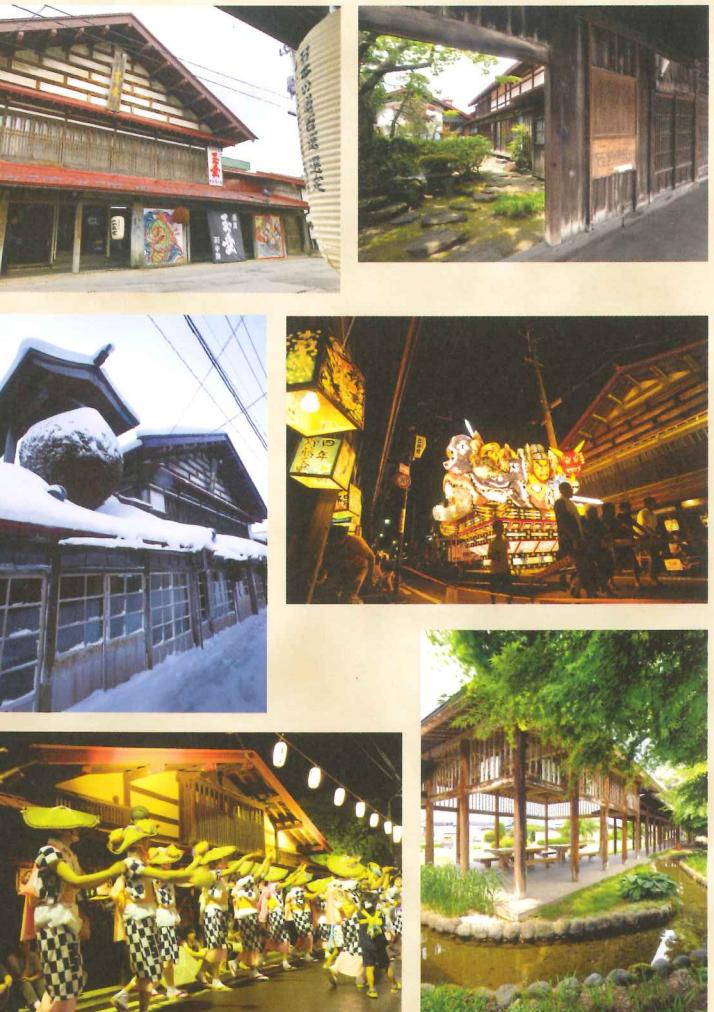
クラシックカークラブ青森 ミーティングinこみせ



200台以上の世界の旧車・名車が黒石市のこみせ通りに一堂に集結。歴史あるこみせ通りにクラシックカーが溶け込んだ風景はまさに壯観の一言です。毎年多くの来場者で賑わい、参加車両による市中パレードでフィナーレを飾ります。

・問／黒石商店街協同組合
0172-53-6030

中町こみせ通りフォトギャラリー



公共交通機関

【タクシー】 黒石市内・近郊地域

- | | |
|------------------|----------------|
| （有）黒石交通 | ☎ 0172-52-3333 |
| 黒石タクシー株式会社 | ☎ 0172-52-3101 |
| 中央タクシー黒石営業所 | ☎ 0172-32-2281 |
| （有）南黒地域交通くろたく営業所 | ☎ 0172-53-1116 |

【レンタサイクル】 黒石市内(期間限定)

- | | |
|--------|----------------|
| 黒石観光協会 | ☎ 0172-52-3488 |
|--------|----------------|

【鉄道】 弘南線 (黒石~弘前区間)

- | | |
|----------|----------------|
| 弘南鉄道株式会社 | ☎ 0172-44-3136 |
|----------|----------------|

【鉄道】 東北新幹線・各在来線

- | | |
|----------------|-----------------|
| JR東日本問い合わせセンター | ☎ 050-2016-1600 |
|----------------|-----------------|

【バス(路線)】 黒石市内及び周辺地域

- | | |
|--------------|----------------|
| 弘南バス 黒石駅前案内所 | ☎ 0172-53-6378 |
|--------------|----------------|

観光案内所／観光ガイド

黒石市商工観光部観光課

☎ 0172-52-2111

黒石観光案内所 (弘南鉄道黒石駅前)

☎ 0172-88-8815

松の湯交流館

☎ 0172-55-6782

黒石つゆやきそば伝説会 (黒石やきそば情報)

☎ 0172-52-4316

中町こみせ通り

重要伝統的建造物群保存地区



青森県黒石市

「こみせ」とは?

藩政時代から今に残る木製の庇「こみせ」。夏は暑い日差しを遮り、冬は吹雪や積雪から人を守り、軒を連ねていた旅籠や呉服屋、商家にとってなくてはならないものでした。現在もまとまった形で残されているのは、全国的にも類例がないことから、昭和62年8月には「日本の道百選」、平成17年7月には「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されました。



こみせ通りの歴史

江戸時代前期、明暦2年(1656年)に黒石初代領主津軽信英(のぶひさ)は、弘前藩主津軽信義の急死により幕府から四代藩主信政の後見役に命じられ、弘前藩から5千石を分知されて「黒石津軽家」が誕生しました。



黒石津軽家が創立されると、信英は、陣屋を造るとともに、分知以前からある古い町並みに侍町、職人町、商人町を加えて、新しい町割りを行いました。これが、現在の町並みの基本となっています。

また、商人町の大きな特徴に「こみせ」があります。こみせの建築年代は、定かではありませんが、信英が町割りをしたときに作らせたと伝えられています。中町や前町は、こみせのある商店が立ち並び、商業の中心として栄えましたが、また、浜街道として多くの人々が集まる通りでもありました。現在でも、江戸時代からの造り酒屋、呉服屋、餅屋などの商店や当時の生活の証である「しどみ」や「さつなぎ」が今もなお残っており、こみせのある情緒溢れた町並みとしてたたずんでいます。



しどみ

こみせと道路の境は、柱があるだけで固定された建具は入っていません。屋内でもなく屋外でもない中間領域的な歩行空間として、「こみせ」を人々は自由に通行することができます。冬になると「しどみ」を落とし込んで吹き込む雪を防いでいます。開放性を失うことなく歩行者を守る先人の優れた工夫が息づいています。



さつなぎ

こみせの柱には、ところどころに鉄の環が打ち付けられています。これは、地方から米や木炭を運んできた馬や、買い出しに来た人々が引いてきた馬の手綱をつなぐための環です。中町が古くから商人町として繁栄していたことを物語っています。